ＡＡＳ名古屋

この解答例は、　2023 年 11 月 21 日　現在のものです

ＡＡＳ（アソシエ・アドバンス・スクール）は、中小企業診断士２次試験に特化した受験機関です。過去問を基軸に置いた学習で、スーパーフレームワークや設問分解練習法など独自の２次試験攻略法を開発してきました。ＡＡＳでは「表現力×構成力×与件活用力」で答案を作成しています。

【令和５年度・第２次筆記試験】　事例Ⅳ（財務・会計戦略）

この模範解答例は
ＡＡＳ名古屋が作成しました。

第１問（配点 20 点）

（設問１）

	(a)	(b)
①	売上高営業利益率	11.59（%）
②	有形固定資産回転率	71.90（回）
③	自己資本比率	77.56（%）

（設問２）（80 字）

売上高営業利益率が悪化した原因は、同業他社との競争激化により売上高が減少したが、新商品開発に向けた基礎研究費を負担し、かつ人件費等を削減していないためである。（79 字）

第２問（配点 30 点）

（設問１）

（１）	63.31％
（２）	1,141,590千円
（３）	3,111,447千円
（４）	14.73ポイント

（設問２）

（１）	中止すべきで（　ある　　ない　）	
	貢献利益が5000万円とプラスであるため。（19字）	
（２）	20,000万円	
	X製品の貢献利益が5,000万円であり、X製品の回避不能な個別固定費が3,000万円であるため、それを補うためにY製品の限界利益が8,000万円増加する必要がある。 また、Y製品の限界利益率＝4,000÷10,000＝0.4 よって、 Y製品の売上高の増加額＝限界利益の増加額÷限界利益率 ＝8,000÷0.4＝20,000（万円）	

無断転用・転載を禁じます。

（設問３）（80 字）
妥当性は低い。理由は、コスト構造が異なる製品に対して共通費を売上高基準で配賦しており、正確な原価計算ができず、正しく継続判断を行うことができないためである。（78 字）

第３問（配点 30 点）
（設問１）

（１）	2,585 万円
	減価償却費＝11,000÷ ５(年)＝2,200　（金額単位：万円） 各年度のCF＝(10,000－0.4×10,000－2,200－2,200)×0.7＋2,200＝3,320 運転資本増減によるCFは、初年度に△800、５年度に800、それ以外の年度は０。 設備売却によるCF＝1,100×(１－0.3)＝ 770 よって、 NPV＝3,320×3.993－800×0.926＋(800＋770)×0.681－11,000＝2,585.13 ≒2,585
（２）	△5,702 万円
（３）	99 万円
	ある　　ない

（設問２）

（１）	620 万円
	減価償却費＝11,000÷４(年)＝2,750　（金額単位：万円） i）10,000個の場合 NPV＝3,485×(3.993－0.926)　－800×0.857＋(800＋770)×0.681－11,000×0.926＝886.065 ii）5,000個の場合 NPV＝1,385×(3.993－0.926)　－400×0.857＋(400＋770)×0.681－11,000×0.926＝△5484.235 5,000個の場合はNPVがマイナスのため、投資しない。 よって、NPVの期待値＝886.065×0.7＋0×0.3＝620.2455≒620万円

（２）（50 字）
２年度期首に実行すべきである。理由は、1 年遅らせることで正味現在価値の期待値が 521 万円高くなるため。（50 字）

第４問（配点 20 点）
（設問１）（50 字）
利点は、生産設備を持たず、変動費型のコスト構造とすることで、売上高減少時の利益減少幅を低減できること。（50 字）

（設問２）（50 字）
利点は、設備投資の実施により固定費が増加することで、売上高の増加による収益性の改善が期待できること。（50 字）

文責：AAS 名古屋　鷺山はるこ

無断転用・転載を禁じます。